

8. 島田こども園保護者への「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）12 月 8 日（月）17 時 30 分～

○場 所：島田こども園

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>自分の子どもが何歳のときにどの学校に通うことになるのかがわかりにくい。</p>	<p>仮に資料のスケジュール通りに進捗した場合、島田小学校に通っていた児童が平成 32 年度（2020 年度）から野田小学校の校舎に、その 2 年後の平成 34 年度（2022 年度）から庄内小学校の敷地に整備された施設一体型小中一貫校の北校に通うこととなります。今現在、1 歳のお子さまは平成 34 年度（2022 年度）の新校に 1 年生として入学されることとなります。</p>
<p>給食について、自校調理は全く考えていないのか。</p>	<p>本市では、一部の学校を除いて、学校給食センター 2 か所で調理し、各小学校に配送する方式を採用しています。現時点において、給食調理室を新たな学校に整備することは考えていません。</p> <p>中学生については、他の中学校と同様、給食と弁当の選択制とし、給食の場合は事前申込みによるデリバリー方式を想定しています。ただ、庄内地域には、こども食堂の動きもあることから、皆さまのご意見も参考にしながら、さらに検討する必要があると考えています。</p>
<p>島田小学校は、新しい校舎が建てられたと思うが、その校舎はどうなるのか。</p>	<p>島田小学校の校舎は新たに建てたものではなく、既存校舎の 4 階部分を減築して、校舎の外壁や教室等をきれいに整備し直したものです。この工事は、校舎耐震化の一環であり、本来ならばこの後、職員室のある校舎を建て替え、既存校舎に筋交いを入れて補強する予定でしたが、今回の構想案が浮上したため、耐震化工事を一旦凍結しています。しかし、今通っている子どもたちの安全を早急に確保しなければなりませんので、現在、別の方法を検討中です。仮に構想案通りに進めば、島田小学校は学校ではなくなりますが、校舎や体育館、運動場などの利活用については、様々な観点から検討することとしております。</p>
<p>仮開校時、野田小学校に多くの子どもが集まるが、プレハブ校舎で生活しなければならないということにはならないか。</p>	<p>資料のスケジュール案を見ていただくと、平成 31 年度（2019 年度）に「改修工事」と記載しています。</p> <p>野田小学校で仮開校した場合、東校舎はコミュニティルームなど主に地域の方が使用していて、子どもたちが使用するためには改修工事が必要と認識しています。わずか 2 年間とはいえ、今と同等の教育環境を整える必要があると考えています。なお、学校で使用するプレハブ校舎は、工事現場に置かれる現場事務所のようなものではなく、さまざまな基準を満</p>

	<p>たした高規格のもので、現在、校舎建替中の西丘小学校の子どもたちは、プレハブ校舎で学校生活を送っています。</p>
<p>学級編制について、何人のクラスになるのか、教えてほしい。</p>	<p>今現在、国及び大阪府の施策により、小学校 1、2 年生は 35 人学級編制、3 年生以降は 40 人学級編制となっています。庄内地域の学校は小規模化が進んでおり、結果的に 1 学級あたりの人数が 20 数人～30 数人となっています。今回の新しい学校では、例えば 1 年生から 4 年生までの定着期において、きめ細かく指導できる学級編制や教職員の加配なども検討しているところです。</p>